事例研究～中国ビジネス法務

北京市大地律師事務所 / 日本部
パートナー弁護士　法学博士　熊 琳

第２６３回　中国最高裁が労働事件最新指導事例を発表

中国最高人民法院 (以下「最高裁」という。) は２０２４年１２月２３日、労働紛争事件の最新指導事例を公表した。今回の指導事例は、主に新たな就業形態 (フードデリバリー配達員、ネットライブ配信者、運転代行など) に関連する労働関係の認定基準をメインとしているが、その内容は日系企業の人事管理においても比較的参考意義が高いため、今回はこの指導事例のポイントを解説する。

◇日系企業に雇用された労働者との紛争解決ケース

日系企業Ａ社は中国に設立された日系独資企業で、営業期間中の清掃ニーズを満たすため清掃員２名を採用した。清掃員の業務量はそれほど多くないことから、Ａ社は一般従業員 (正社員) との労働契約とは異なる労務契約により、清掃員との雇用契約を締結した。契約では清掃員の毎日の勤務時間は３時間とし、Ａ社での勤務時間以外は個人的に他の仕事に従事してもよいことを約定した。

その後、Ａ社は中国市場の大きな変化により経営維持が困難になり、中国からの撤退を決定した。撤退に伴う従業員の配属を行う中で、清掃員の一人であるＢ氏は、Ａ社との間に労働関係があると主張し、Ａ社に対し経済補償金の支払いを要求した。Ａ社は双方の関係は労働関係ではなく労務関係 (一般民事契約関係) であるとして、Ｂ氏にこれを説明すると共にその要求を拒否した。Ｂ氏は学歴があまり高くなく、感情的になっていたこともあり、Ａ社の説明内容を理解できないまま、Ａ社に出向いては嫌がらせをするなど理性を欠いた行動を取ったため、Ａ社は弁護士や地元政府に助けを求めざるを得なくなった。弁護士と政府関係者が共に説得にあたったことで、Ｂ氏は徐々に雇用関係の性質について理解し、同時にＡ社も一定の譲歩を示しＢ氏に少額の奨励金を与えることに同意した結果、Ｂ氏との労務契約関係解除を合意するに至った。

◇指導事例の重点内容

今回発表された4つの指導事例のポイントは、労働関係の有無をいかに正確に認定するかという点にある。労働関係が存在するかどうかは、労働紛争事件を解決する際、真っ先に明確にしなければならない重要な問題点である。

１、今回の指導事例では、労働関係の本質的な特徴は「支配的労働管理」であり、具体的には以下に挙げた特性があるかどうか、またその強弱の程度などを、事例中の事実と結び合わせて確定すべきことが明確に提起された。

(1) **人格従属性：**主に従業員が企業の業務管理、出勤管理、労働規律、賞罰規定などの規則制度や企業の業務指示を遵守する必要があるかどうか、従業員が自主的に労働時間と業務量を決定できるかどうか、及び業務の継続性などを指す。

(2) **経済従属性：**主に賃金を得る方式で従業員が企業から労働報酬を得ているかどうか、労働報酬交渉において従業員が大きな影響力を有しているかどうかを指す。

(3) **組織従属性：**主に従業員が従事する業務が企業業務の重要構成部分に属しているかどうかを指す。

記事の複製・転載を禁じます

２、雇用主である企業が従業員に自ら会社を設立するよう要求し、その会社と雇用主である企業が業務委託契約を締結する形で労働関係の構築を回避する実務上の状況について、指導事例では、形式よりも「実質的審査原則」により実質を重視することを明確に規定し、事実上上記1の（１）～（３）の各項に合致するか否かを認定基準としている。

指導事例第２３８号を例にすると、この事例では企業が従業員に自ら「個人事業主」として登録するよう要求し、その後その「個人事業主」と企業が業務委託契約を締結した上で、企業とその従業員との間に労働関係は存在しないと主張したが、裁判所は以下の観点に基づき双方には労働関係が存在すると認定した。

（１）従業員は企業の業務指示、業務手配、出勤制度などを遵守する必要があり、人格従属性を具備している。

（２）企業は従業員の業務量に応じた賃金を支払っており、経済従属性を具備している。

（３）当該従業員が従事している業務内容は企業の主要業務に属している。

◇日系企業へのアドバイス

今回の指導事例は、ケーススタディ形式により労働関係の判断基準をかなり明確に示した内容となっており、今後の実務において労働関係の有無を判断する上で非常に重要な参考価値がある。同時に昨今、労働紛争事件の解決に欠かせない専門性が益々必要とされているため、専門知識を有し、経験を積んだ、有能な専門家の協力を得て対応しなければならない。

北汽福田汽車、北京市朝陽区のオフィス物件売却

中国メディアの中証網によると、中国の財産権取引所、北京産権交易所は9日、北京市朝陽区のオフィスビル「佳境天城大廈」の2階一部の物件について買い手の募集を始めた。床面積１５１１．５４平方メートルで、現在は商用車大手の北汽福田汽車（福田汽車、北京市）が所有。レンタカー大手の神州優車など2社が賃借している。

このビルが建つ場所は、地下鉄１４号線の望京駅から約６００メートルの一等地。北京首都国際空港まで車で４５分と交通が便利。周辺には、高家園社区、花家地里、藍色家園など優良な住宅団地が数多くあり、商業施設や医療機関も充実している。（時事）

力量鑽石の合成ダイヤモンド展示センター、北京に完成

中国メディアの中証網によると、宝飾品や工具用の合成ダイヤモンドを製造する河南省力量鑽石（力量鑽石、河南省商丘市柘城県）が、北京市に建設した「北京展示センター」の落成式が１２日行われた。

力量鑽石の邵増明董事長（会長）によると、同社は多結晶や単結晶の合成ダイヤモンドの製造会社で、２０２１年9月に深セン証券取引所の新興企業向け市場「創業板」に上場。宝飾用にも使われる高価な多結晶の合成ダイヤモンドは、既に年間生産規模１０００万カラットを実現し、その後も生産の拡大が続いている。

力量鑽石は、ＩＣチップ加工専用の八面体結晶ダイヤモンドの国産化に成功。第３世代半導体や太陽電池切断用の高い強度と耐熱性のあるダイヤモンド材料の開発にも成功した。

同社によれば、北京展示センターの完成により、世界に向けて中国の合成ダイヤモンドの質と技術力の高さをアピールできる。多くの消費者に新型の宝飾品である合成ダイヤモンドの美しさを知ってもらう狙いもある。（時事）